

Systemwalker Centric Manager Oracle Enterprise Manager 通知連携設定手順書

Creation Date: March 19, 2009
Last Update: September 15, 2011
Version: 1.03

Document Control

Author

Hajime Obata (Oracle Corporation Japan)

Change Logs

Date	Author	Version	Change Log
Mar. 19 2009	Hajime Obata	0.1	Created.
Jun. 08 2009	Hajime Obata	1.0	ver1.0
Sep. 16 2009	Hajime Obata	1.0	Published
Oct. 08 2009	Hajime Obata	1.01	Modified Chap.3
Aug. 25 2010	Hajime Obata	1.02	Modified Chap.4
Sep. 15 2011	Yukio Yokota	1.03	Modified Chap.3 & 4

Reviewers

Name	Position
------	----------

Approvals

<Approver 1> _____

<Approver 2> _____

Distribution

Copy No.	Name	Location
----------	------	----------

目次

0. はじめに.....	4
● 通知連携の概要.....	4
● 通知連携の構成.....	4
● 前提.....	5
● Systemwalker Centric Manager について.....	5
● Oracle Enterprise Manager について.....	6
1. Systemwalker Centric Manager の導入.....	7
● Systemwalker Centric Manager のインストール.....	7
● ノードの検出.....	7
2. Oracle Enterprise Manager の導入.....	8
● Oracle Enterprise Manager のインストール.....	8
3. 連携アダプタのインストール.....	9
● 連携アダプタの入手.....	9
● 連携アダプタのインストール.....	9
4. 連携機能の設定.....	11
● バッチファイルの作成.....	11
● 通知メソッドの設定.....	13
5. 通知の設定.....	16
● しきい値の設定.....	16
● 通知ルールの設定.....	17
参考資料.....	22
● 連携コマンドの使用方法.....	22
● バッチファイル作成時のポイント・注意事項.....	23

0. はじめに

当ドキュメントでは、Systemwalker Centric Manager (以下 Centric Manager) と Oracle Enterprise Manager(以下 OEM)の通知連携の設定方法について解説します。

通知連携の概要

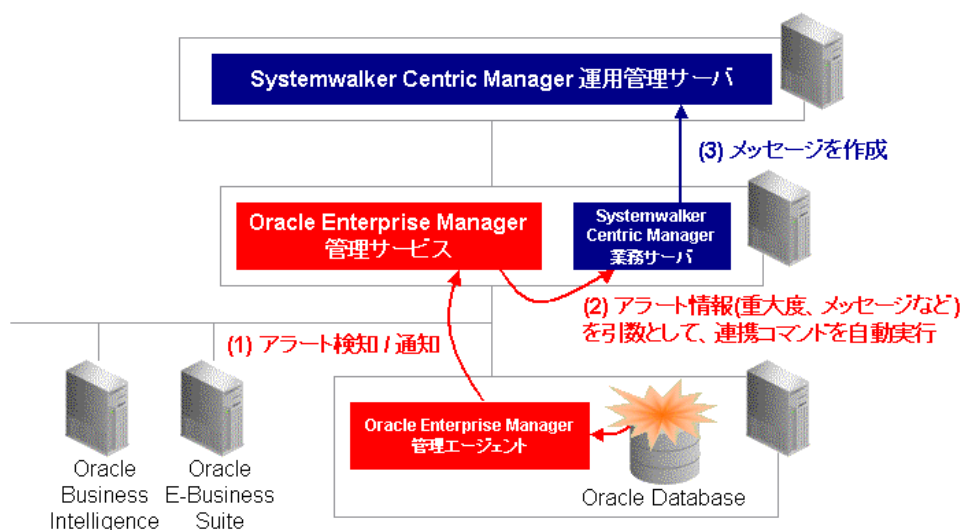
本通知連携では、OEM がアラートを検知した際に、アラート情報をもとにして Centric Manager に自動的にメッセージを作成します。これにより、OEM による詳細な監視の結果を Centric Manager で一元的に管理できるようになります。

通知連携の構成

本通知連携では、OEM が検知したアラートの内容を元に Centric Manager のメッセージを自動作成します。

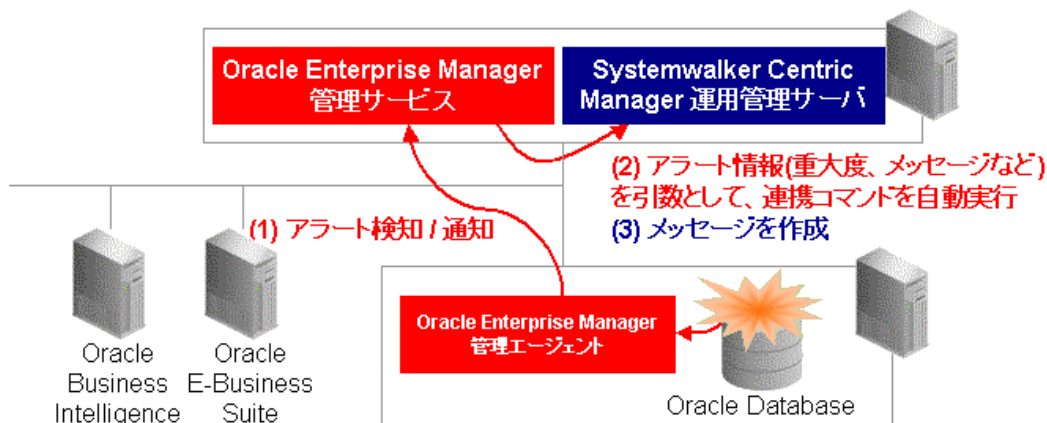
OEM は、監視対象でアラートが発生した際に、任意の OS コマンドを実行して通知を行う機能を持っています。この機能を使用して、アラート発生時に Centric Manager の連携コマンドを自動実行するよう構成します。

また、OEM は OS コマンドを実行する際に環境変数内にアラートに関するさまざまな情報を格納しています(例：\$HOST(アラート発生元のサーバー名))。これを使用して、連携コマンドにアラート重大度やアラートメッセージなどを渡します。



本連携では、下図のように Centric Manager 運用管理サーバと Oracle Enterprise

Manager 管理サービスを同じサーバーにインストールする構成をとることも可能です。



前提

本手順書は下記の製品およびプラットフォームを前提としています。

1. Windows Server 2003 R2 SP3 にインストールされた Systemwalker Centric Manager V13.3 運用管理サーバ
2. Windows Server 2003 R2 SP3 にインストールされた Systemwalker Centric Manager V13.3 業務管理サーバ、および Oracle Enterprise Manager 10g Grid Control Release5 (10.2.0.5)
3. Red Hat Enterprise Linux 5.2 にインストールされた Oracle Database 11g Enterprise Edition (11.1.0.7)、および Oracle Enterprise Manager 10g Grid Control Management Agent (10.2.0.5)

それぞれの製品が対応している全てのプラットフォームについては、各製品のマニュアル等を参照して下さい。

Systemwalker Centric Manager について

Systemwalker Centric Manager は、システム運用のライフサイクル（導入/設定～監視～復旧～評価）に従い、ソフトウェア資源の配付、システムやネットワークの集中監視、リモートからのトラブル復旧などの優れた機能で運用管理作業を軽減します。

特長：シームレスな統合運用管理、高信頼なメッセージ通知、運用管理サーバの二重化運用、運用セキュリティ

<http://systemwalker.fujitsu.com/jp/centricmgr/>

Oracle Enterprise Manager について

Oracle Enterprise Manager は、独自のトップダウン・アプローチによりサービス品質の向上と IT 運用コストの最小化を支援する、オラクル純正の管理ソフトウェアです。これを実現するのは、オラクルのテクノロジーによる幅広いアプリケーション管理および品質保証ソリューションと綿密な管理ソリューションの融合であり、オラクルのパッケージ・アプリケーション、Oracle Fusion Middleware、Oracle Database および Oracle VM などの管理において特に強みを発揮します。

http://www.oracle.com/lang/jp/enterprise_manager/index.html

1. Systemwalker Centric Manager の導入

Centric Manager をインストールし、監視対象ノードを検出します。

Systemwalker Centric Manager のインストール

Centric Manager の運用管理サーバ、および業務サーバをインストールします。業務サーバは、OEM をインストールするサーバーにインストールします。

インストールの詳細については、「Systemwalker Centric Manager 導入手引書」を参照してください

<http://systemwalker.fujitsu.com/jp/man/lifecycle/centricmgr/v13.3/introduction/>

ノードの検出

OEM 管理サービスが導入されたサーバ、OEM 管理エージェントが導入されたサーバを Centric Manager に登録するために、ノード検出を行います。ノード検出を行う手順については、「Systemwalker Centric Manager 使用手引書 監視機能編」を参照してください。

<http://systemwalker.fujitsu.com/jp/man/lifecycle/centricmgr/v13.3/operation/>

2. Oracle Enterprise Manager の導入

OEM をインストールし、監視ターゲットを検出・登録します。

Oracle Enterprise Manager のインストール

OEM の管理サービスと管理エージェントをインストールします。管理サービスは「1. Systemwalker Centric Manager の導入」で業務サーバをインストールしたサーバに、管理エージェントは OEM の監視対象(本手順書の場合は Oracle Database 11g Enterprise Edition (11.1.0.7))がインストールされているサーバにインストールします。

今回使用する Oracle Enterprise Manager 10g Grid Control Release5 (10.2.0.5)をインストールするには、最初に同 Release2 (10.2.0.2)をインストールし、続いて同 Release5 (10.2.0.5) のパッチセットを適用してアップグレードします。

Release2 のインストールの手順については、「Oracle Enterprise Manager Grid Control インストレーションおよび基本構成マニュアル」を参照してください。

<http://otndnld.oracle.co.jp/document/products/oem10/1020/generic/E05934-02/toc.htm>

また、Release 5 パッチセットの適用手順については、パッチセットに同梱されているドキュメントを参照してください。

3. 連携アダプタのインストール

連携アダプタの入手

連携アダプタをソフトウェア技術情報ホームページからダウンロードします。

<http://software.fujitsu.com/jp/technical/systemwalker/centricmgr/template/#v13>

※ V13.2.0 以前のバージョンへの対応につきましては、富士通サポート窓口へお問い合わせ下さい

連携アダプタのインストール

業務サーバに連携アダプタをインストールする手順を以下に示します。

コマンドプロンプトから以下のコマンドを実行し、Centric Manager のサービスを停止します。

```
pcentricmgr
```

ダウンロードしたファイルを任意のフォルダに解凍します。解凍先には、OEM フォルダが作成されます。

```
OEM
+ bin
| + mpadevtaalert.exe
| + mpadoemalert.dll
| + sample.bat
| :
+ etc
```

解凍して作成された ITM フォルダを連携アダプタのインストール先にコピーします。コピーするフォルダのパスにはスペースを含まないようにしてください。

例:

```
C:¥OEM
```

セットアップコマンド mpadoemsetup.bat を実行します。

```
OEM フォルダ移動先¥OEM¥bin¥mpadoemsetup.bat
```

以下のコマンドで Systemwalker Centric Manager のサービスを起動するか、システムを再起動してください。

```
scentricmgr
```

以上で連携アダプタのインストールは完了です。

4. 連携機能の設定

OEM がアラートを検知した際に、連携コマンドが自動実行されるように設定します。

このとき、OEM は連携コマンドを直接実行せず、バッチファイル(あるいはシェルスクリプト)を実行します。ファイル内で OEM のアラート情報を Centric Manager の連携コマンドの引数に渡したうえで連携コマンドを実行するように記述します。

バッチファイルの作成

OEM がアラート検知時に自動実行するバッチファイルを作成します。以下に、バッチファイルのサンプルを記載します。本サンプルは連携アダプタの以下の場所に同梱されています。

```
OEM フォルダ移動先¥OEM¥bin
```

sample.bat (サンプル)

```
@echo off

rem PATH 環境変数のセット

set PATH=C:¥Systemwalker¥MPWALKER.DM¥BIN;%PATH%
set PATH=C:¥OEM¥bin;%PATH%

rem アラート情報の受け渡し

set EM_SEVERITY=%SEVERITY%
set EM_HOST=%HOST%
rem メッセージ文字列中のダブルクォートは¥""で置換しエスケープ
set EM_MESSAGE="¥MESSAGE:¥""¥""¥"
set EM_TARGET_TYPE=%TARGET_TYPE%

if not defined SEVERITY set EM_SEVERITY=警告
if not defined HOST set EM_HOST=サーバー名
if not defined TARGET_TYPE set EM_TARGET_TYPE=ターゲットタイプ

rem 連携コマンドに渡す引数の作成

set SYSTEMWALKER_HOST=%EM_HOST%
set SYSTEMWALKER_MESSAGE=OEM_"¥EM_TARGET_TYPE"_"¥EM_MESSAGE%

rem 重大度情報の変換

if "%EM_SEVERITY%" == "警告" (
    set SYSTEMWALKER_SEVERITY=Warning
```

```
    goto main
)
if "%EM_SEVERITY%" == "クリティカル" (
    set SYSTEMWALKER_SEVERITY=Error
    goto main
)
if "%EM_SEVERITY%" == "クリア" (
    set SYSTEMWALKER_SEVERITY=Information
    goto main
)
if "%EM_SEVERITY%" == "メトリックエラーの開始" (
    set SYSTEMWALKER_SEVERITY=Error
    goto main
)
if "%EM_SEVERITY%" == "メトリックエラーのクリア" (
    set SYSTEMWALKER_SEVERITY=Information
    goto main
)
if not "%EM_SEVERITY%" == "" (
    set SYSTEMWALKER_SEVERITY=Information
    goto main
)
)

rem 連携コマンド実行

:main

mpadevtaalert.exe -s %SYSTEMWALKER_SEVERITY% -n %SYSTEMWALKER_HOST%
-m %SYSTEMWALKER_MESSAGE%

exit 0
```

本サンプルを使用する際は、5～6行目(以下に抜粋)を環境に合わせて書き換え、Centric Manager インストール先フォルダ内の MPWALKER.DM フォルダにある BIN ディレクトリと sample.bat のあるディレクトリをそれぞれ PATH 環境変数に含めます。

sample.bat 5～6行目

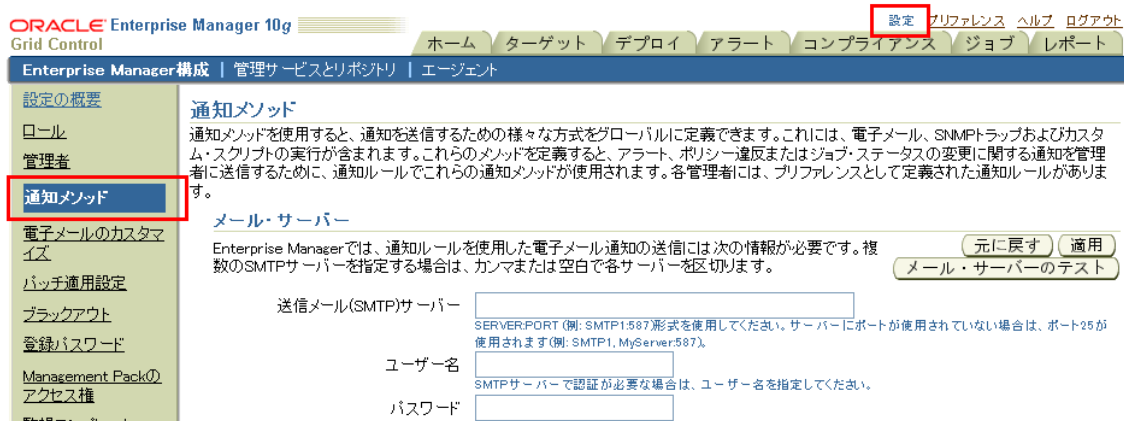
```
set PATH=C:\Systemwalker\MPWALKER.DM\BIN;%PATH%
set PATH=C:\OEM\bin;%PATH%
```

バッチファイルを作成する際のその他のポイントや注意事項については、末尾の参考資料を参照してください。

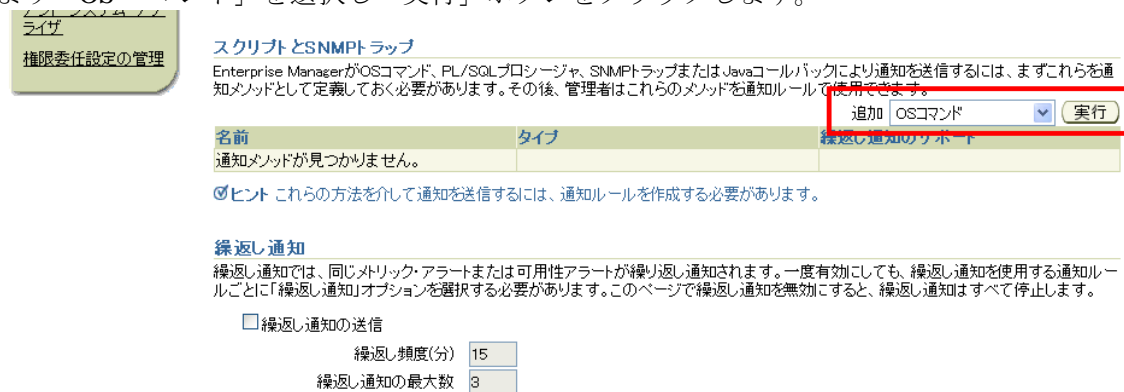
通知メソッドの設定

OEMがアラートを検知した際の通知方法として前項で作成したバッチファイルを実行できるように、通知メソッドを構成します。

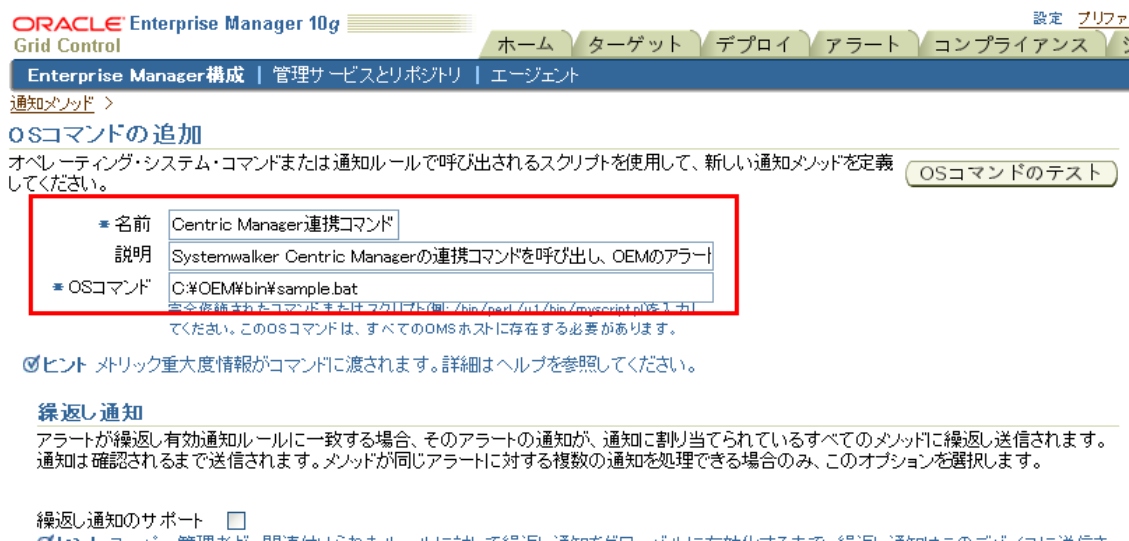
OEM にスーパー管理者ユーザーでログインし、「設定」、「通知メソッド」の順にクリックします。



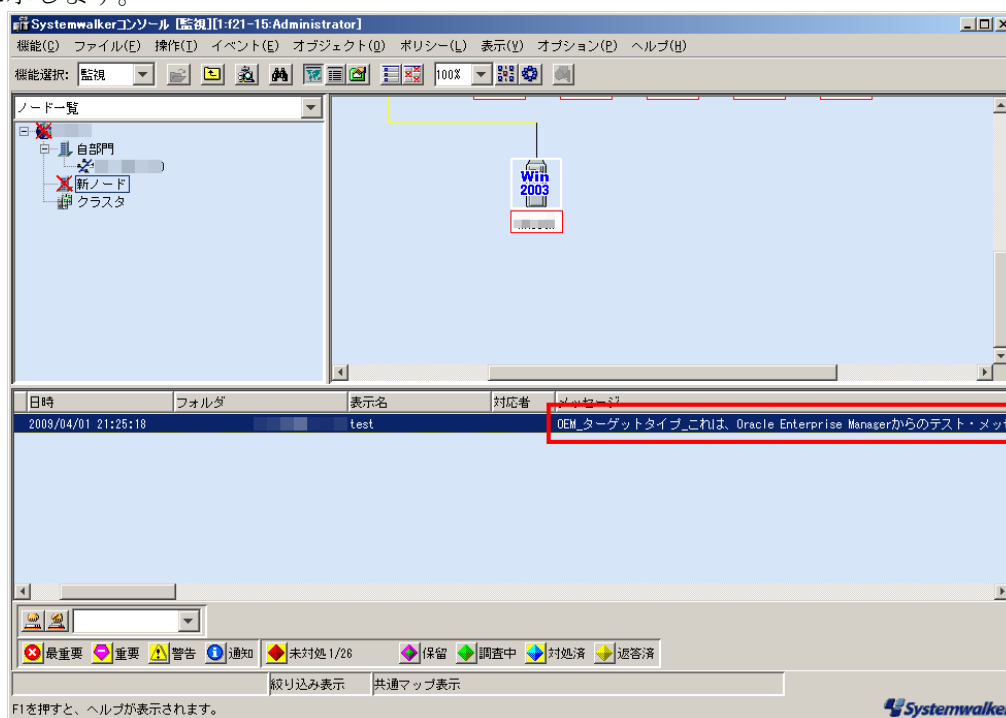
「スクリプトと SNMP トラップ」セクションで「追加」ドロップダウンメニューより「OS コマンド」を選択し「実行」ボタンをクリックします。



通知メソッドに任意の名前を設定し、この通知メソッドについての説明を記入し(任意)、OS コマンドとして前項で作成したバッチファイルをフルパスで指定します。



「OS コマンドのテスト」 ボタンをクリックすることで、入力した OS コマンドをテスト実行することができます。このときの Centric Manager 側の出力例を以下に示します。



設定が終了したら、「OK」 ボタンをクリックすると通知メソッドが作成されます。

スクリプトとSNMPトラップ

Enterprise ManagerがOSコマンド、PL/SQLプロシージャ、SNMPトラップまたはJavaコールバックにより通知を送信するには、まずこれらを通知メソッドとして定義しておく必要があります。その後、管理者はこれらのメソッドを通知ルールで使用できます。

追加

選択	名前	タイプ	繰り返し通知のサポート
<input checked="" type="radio"/>	Centric Manager連携コマンド	OSコマンド	いいえ

ヒント これらの方法を介して通知を送信するには、通知ルールを作成する必要があります。

繰り返し通知

繰り返し通知では、同じトリックアラートまたは可用性アラートが繰り返し通知されます。一度有効にしても、繰り返し通知を使用する通知ルールごとに「繰り返し通知」オプションを選択する必要があります。このページで繰り返し通知を無効にすると、繰り返し通知はすべて停止します。

繰り返し通知の送信

繰り返し頻度(分)

繰り返し通知の最大数

以上で連携機能の設定は終了です。

5. 通知の設定

OEM で異常検知/アラート通知させたい監視項目を設定し、アラート発生時に「4. 連携機能の設定」で設定した通知メソッドを実行するように設定します。

しきい値の設定

OEM で異常検知させたい監視項目を設定します。ここでは「ora11」というデータベース・インスタンスのアーカイブ領域使用率が 75%になったら警告アラートを、90%になったらクリティカルアラートを発生させるよう設定します。

ヒント：複数のターゲットに共通のしきい値を設定する場合は、監視テンプレートを使用して手順を簡略化することができます。

http://otndnld.oracle.co.jp/document/products/oem/10205/doc_cd/doc/server.102/B31252-01/monitoring.htm#sthref42

OEM にログインし、「ターゲット」タブ、「Database」サブタブ、「ora11」インスタンスの順にクリックします。

The screenshot shows the Oracle Enterprise Manager 10g interface. The top navigation bar includes 'ホーム', 'ターゲット', 'デプロイ', 'アラート', and 'コンプライアンス'. The 'Database' sub-tab is selected. Below the navigation, there are search and filter options. A table lists targets, with 'ora11' highlighted. Below the table, there are '関連リンク' (Related Links) for various database metrics and configurations.

選択	名前	ステータス	アラート	ポリシー違反	コンプライアンススコア (%)	バージョン	セッション数: CPU	セッション数: I/O	セッション数: その他	インスタンス CPU (%)
<input checked="" type="radio"/>	ora11		0 2	14 7 1	92	11.1.0.7.0	0	02	0	16

ヒント このページで使用するアイコンおよび記号の説明は、次を参照してください: [アイコン・キー](#)

関連リンク

SQLの実行	ディクショナリの同期化	ディクショナリの比較
ディクショナリ・ベースライン	データ・マスキングのフォーマット・ライブラリ	データ・マスキング定義
リカバリ・カタログ	表の列のカスタマイズ	

ora11 の管理画面トップの下部にある「関連リンク」から、「メトリックとポリシー設定」をクリックします。

ORACLE Enterprise Manager 10g Grid Control

ホーム ターゲット デプロイ アラート コンプライアンス

ホスト | Database | ミドルウェア | Webアプリケーション | サービス | システム | グループ | すべてのターゲット

データベース・インスタンス: ora11

ホーム パフォーマンス 可用性 サーバー スキーマ データ移動 ソフトウェアとサポート

ページ・リフレッシュ 2009/04/13 23時00分38秒 JST リフレッシュ データの表示 自動(60秒)

一般 停止 ブラックアウト

ステータス 稼働中
稼働開始 2009/03/17 17時48分59秒 JST
インスタンス名 ora11
バージョン 11.1.0.7.0
ホスト
リスナー

すべてのプロパティの表示

ホストCPU

100%
75%
50%
25%
0%

その他 ora11

ロード 0.00 ページング 1.80

アクティブ・セッション

2.0
1.5
1.0
0.5
0.0

待機 ユーザ I/O CPU

コア数 2

SQLレスポンス時間

1.0
0.5
0.0

最新の収集は SQLレスポンス時間

関連リンク

- EMのSQL履歴
- アーカイブ/パージのアラートログ
- アラート・ログの内容
- スケジューラ・セントラル
- デプロイ
- ブラックアウト
- メトリック収集エラーレポート
- SQLの実行アクセス
- アラート履歴
- すべてのメトリック
- トレース・ファイル
- ベースライン・メトリックしきい値
- メモリー・アクセス・モードで監視
- 監視構成
- SQLワークシート
- アドバイザ・セントラル
- ジョブ
- ターゲット・プロパティ
- バッチの適用
- メトリックとポリシー設定**
- ユーザー定義メトリック

「アーカイブ領域使用率(%)」の「警告のしきい値」、「クリティカルのしきい値」の欄にそれぞれ 75、90 を記入し「OK」ボタンをクリックします。「収集スケジュール」「編集」欄をクリックすることで、より詳細な設定を行うことができます。

ORACLE Enterprise Manager 10g Grid Control

ホーム ターゲット デプロイ アラート コンプライアンス

ホスト | Database | ミドルウェア | Webアプリケーション | サービス | システム | グループ | すべてのターゲット

データベース・インスタンス: ora11 >

メトリックとポリシー設定

取消 OK

メトリックしきい値 ポリシー

表示 しきい値のあるメトリック

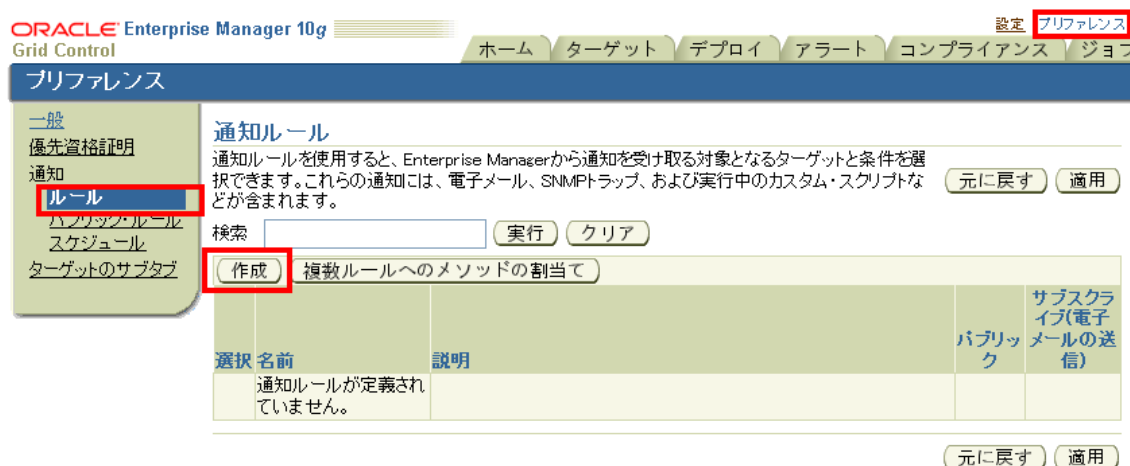
メトリック	比較演算子	警告のしきい値	クリティカルのしきい値	修正処理	収集スケジュール	編集
SQLレスポンス時間(%)	>	500		なし	5分ごと	
アーカイバ・ハンドのアラート・ログ・エラー	含む		ORA	なし	15分ごと	
アーカイバ・ハンドのアラート・ログ・エラー・ステータス	>	0		なし	15分ごと	
アーカイブ領域使用率(%)	>	75	90	なし	15分ごと	
アンマウント	=	0		なし	15秒ごと	
インスタンス・ステータス	=		0	なし	15秒ごと	

通知ルールの設定

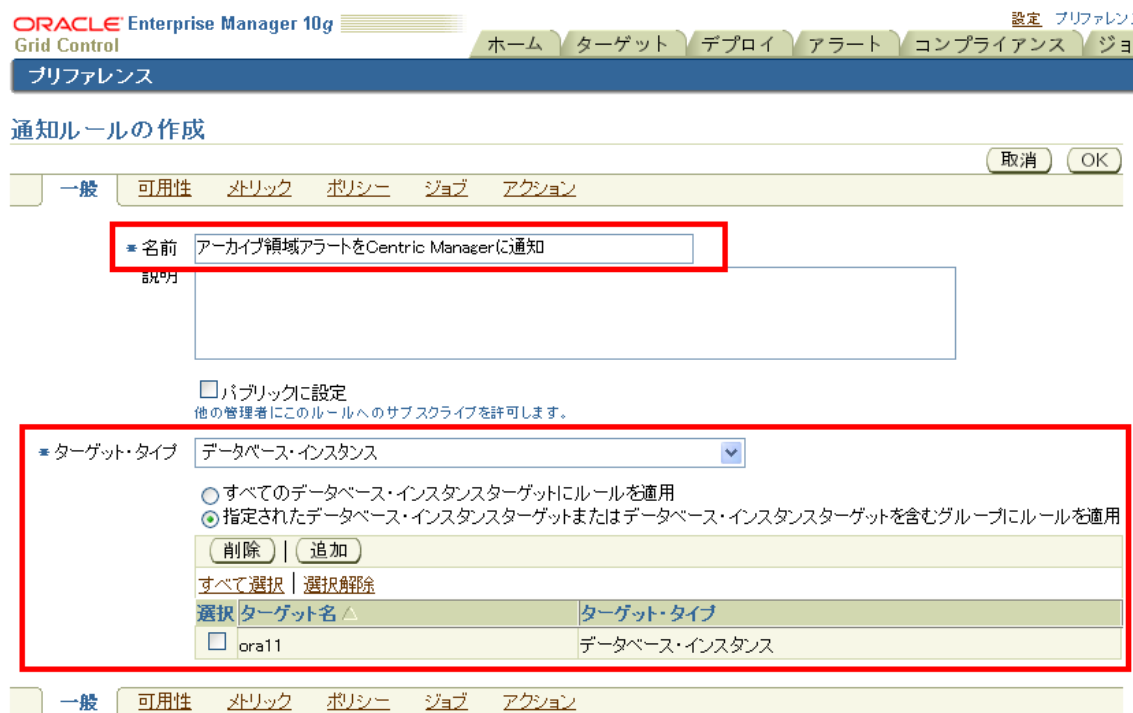
アラートなどの(OEM の)イベントが発生した際に、前章で設定した通知メソッドを自動実行するよう通知ルールを作成します。ここでは「ora11」で警告アラート、

クリティカルアラートが発生したり、アラートがクリアされた際に、「前章で設定した通知メソッドを実行する」ように設定します。

OEM にログインし、「プリファレンス」、「ルール」、「作成」ボタンの順にクリックします。



通知ルールの名前を入力し、ターゲットとして ora11 を選択します。



次に「メトリック」サブタブ、「追加」の順にクリックします。

ORACLE Enterprise Manager 10g 設定 プリファレンス
 Grid Control ホーム ターゲット デプロイ アラート コンプライアンス ジョブ

プリファレンス

通知ルールの作成 (取消) (OK)

一般 可用性 **メトリック** ポリシー ジョブ アクション

追加

選択	メトリック (メトリックが追加されていません)	オブジェクト	重大度の状態	修正処理の状態		編集
				クリティカルの場合	警告の場合	
<input type="checkbox"/>						

追加のアラート条件

一定の時間オープンであり、確認されていないアラートにルールを適用するための追加条件を選択します。

追加のアラート選択条件が設定されていません。 (追加)

「アーカイブ領域使用率(%)」のチェックボックスにチェックを入れます。また「重大度の状態」セクションで「警告」「クリティカル」「クリア」にチェックを入れ、「続行」ボタンをクリックします。

ORACLE Enterprise Manager 10g 設定 プリファレンス ヘルプ ログアウト
 Grid Control ホーム ターゲット デプロイ アラート コンプライアンス ジョブ レポート

プリファレンス

通知ルールの作成 >

メトリックの追加 (取消) (続行)

通知を受信する対象となるメトリックと重大度を選択してください。

メトリック

検索 (実行) (クリア)

◀ 前の10行 21-30 / 174 ▶ 次の10行 ▶

すべて選択 | 選択解除

選択	メトリック	オブジェクト
<input type="checkbox"/>	SQLレスポンス時間(%)	n/a
<input type="checkbox"/>	アンマウント	n/a
<input type="checkbox"/>	アーカイバ・ハングのアラート・ログ・エラー	<input checked="" type="radio"/> すべてのオブジェクト(時間/行番号) <input type="radio"/> 選択 <input type="text"/>
<input type="checkbox"/>	アーカイバ・ハングのアラート・ログ・エラー・ステータス	n/a
<input checked="" type="checkbox"/>	アーカイブ領域使用率(%)	<input checked="" type="radio"/> すべてのオブジェクト(アーカイブ領域保存先) <input type="radio"/> 選択 <input type="text"/>
<input type="checkbox"/>	インスタンス・ステータス	n/a
<input type="checkbox"/>	エンキュー・タイムアウト/トランザクション	n/a
<input type="checkbox"/>	エンキュー・タイムアウト/秒	n/a
<input type="checkbox"/>	エンキュー・デッドロック/トランザクション	n/a
<input type="checkbox"/>	エンキュー・デッドロック/秒	n/a

◀ 前の10行 21-30 / 174 ▶ 次の10行 ▶

重大度の状態

通知を受信する対象となる重大度の状態を選択してください。

クリティカル 警告 クリア

通知の対象となるイベントが指定されました。

ORACLE Enterprise Manager 10g
Grid Control

ホーム ターゲット デプロイ アラート コンプライアンス ジョブ

プリファレンス

通知ルールの作成

一般 可用性 **メトリック** ポリシー ジョブ アクション

削除 | 追加

すべて選択 | 選択解除

選択	メトリック	オブジェクト	重大度の状態	修正処理の状態		編集
				クリティカルの場合	警告の場合	
<input type="checkbox"/>	アーカイブ領域使用率(%)	すべてのオブジェクト(アーカイブ領域保存先)	クリティカル, 警告, クリア			

追加のアラート条件
一定の時間オープンであり、確認されていないアラートにルールを適用するための追加条件を選択します。

追加のアラート選択条件が設定されていません。

ヒント：メトリックを複数指定することも可能です。その場合、指定したいずれかのメトリックで指定した重大度のアラートが発生した場合にアクション(後述)が実行されます。

続いて、「アクション」サブタブをクリックし、前章で作成した Centric Manager 連携用の通知メソッドを選択します。

ORACLE Enterprise Manager 10g
Grid Control

ホーム ターゲット デプロイ アラート コンプライアンス ジョブ

プリファレンス

通知ルールの作成

一般 可用性 メトリック ポリシー ジョブ **アクション**

取消 OK

電子メール通知

電子メールを送信
電子メールアドレスが見つかりませんでした。電子メールは送信されません。後で「一般」ページで電子メール・アドレスを追加して、電子メールを送信するようこのルールを編集できます。

名前	タイプ	説明	繰り返し通知のサポート	ルールへのメソッドの割当て
Centric Manager連携コマンド	OSコマンド	Systemwalker Centric Managerの連携コマンドを呼び出し、OEMのアラート情報にメッセージを作成します。		<input checked="" type="checkbox"/>

繰り返し通知
このルールで指定するすべてのメトリック・アラートと可用性の状態(「停止中のターゲット」、「エージェント使用不可」、「メトリック・エラー検出」)について、通知を繰り返し送信できます。繰り返し通知が停止するのは、アラートが確認されるかクリアされたとき、または繰り返し通知の最大数に達したときだけです。

繰り返し通知の送信

設定が終了したら、「OK」ボタンをクリックします。

ヒント：通知ルールの設定は、ターゲットタイプごと、ターゲットごと、監視項目ごとなどに個別に行うことができます(例: データベース・インスタンス用と Oracle BI Server 用、データベース・インスタンス 1 用とデータベース・インスタンス 2 用、表領域使用率用とバッファキャッシュヒット率用など)。それぞれのルールで、通知対象となる監視項目や重大度(警告、クリティカル、クリア)を個別に設定することができます。

以上で通知の設定は終了です。

参考資料

連携コマンドの使用方法

記述形式

```
mpadevtaalert.exe [-s Severity] [-n 発生元ホスト] [-m メッセージ]
```

オプション

-s Severity : エラー種別を指定します。

エラー種別は、以下のどれかの文字列を指定します。本オプションが指定されていない場合、または指定に誤りがある場合は、**Error** が指定されます。

エラー種別	指定する文字列
HALT	Halt
ERROR	Error、または Critical
WARNING	Warning
INFO	Information、または Informational

-n 発生元ホスト : メッセージの発生元ホスト名を指定します。指定されていない場合は、実行環境マシンのホスト名が指定されます。

-m メッセージ : Systemwalker Centric Manager システム監視エージェントに通知するメッセージを指定します。2048 バイトを越える文字列が指定された場合、2048 バイト以降は破棄します。

戻り値

0 : 常に 0 を返します。

コマンド格納場所

OEM フォルダ移動先¥OEM¥bin

実行に必要な権限/実行環境

Administrator 権限が必要です。

注意事項

本コマンドが失敗した場合、イベントログにエラーを出力します。ただし、コマンドが連続して失敗した場合、2度目以降のエラーは出力しません。

本コマンドで通知されたメッセージは、コマンドが実行された日時がメッセージの発生日時として通知されます。

バッチファイル作成時のポイント・注意事項

環境変数を使用したアラート情報の受け渡し

バッチファイル内では、連携コマンド (mpadevtalet.exe) を実行します。その際、OEMのアラート情報の中から Centric Manager のメッセージ作成に必要なものを引数に渡します。

OEMのアラート情報は、OS コマンド (本バッチファイル) を実行する際に自動で環境変数に格納されています(例: \$HOST→アラート発生元のホスト名、\$MESSAGE→アラートメッセージ、など)。

次の例では、この中から\$HOST、\$SEVERITY(アラートの重大度)、\$MESSAGEを連携コマンドの引数に渡しています。

例:

```
C:¥OEM¥bin¥mpadevtalet.exe -s %SEVERITY% -n %HOST% -m %MESSAGE%
```

PATH 環境変数の設定

連携コマンド (mpadevtalet.exe) を実行する際は、PATH 環境変数に Centric Manager インストール先の MPWALKER.DM フォルダ内にある BIN ディレクトリが設定されている必要があります。バッチファイル内であらかじめ PATH 環境変数を設定しておきます。

例:

```
set PATH=<Centric Manager インストールディレクトリ>¥MPWALKER.DM¥BIN;%PATH%
```

重大度情報の変換

環境変数に格納されるアラート情報のうち重大度(\$SEVERITY)については、OEMの管理サービスが日本語で起動している場合、「警告」「クリティカル」など日本語で格納されるため、バッチファイル内であらかじめ Centric Manager 用の重大度に変換を行います(例:「警告」(OEM)→「Warning」(Centric Manager)など)

例：

```
if "%EM_SEVERITY%" == "警告" (  
    set SYSTEMWALKER_SEVERITY=Warning  
)
```

OEM の管理サービスを英語で起動している場合は、重大度も英語で出力されるため、それに合わせて記述します

例：

```
if "%EM_SEVERITY%" == "WARNING" (  
    set SYSTEMWALKER_SEVERITY=Warning  
)
```

メッセージの記述方法

Centric Manager 上に表示させるメッセージ (引数“-m”を使用して作成) は以下の文字列ではじまる必要があります。

```
OEM_<ターゲットタイプ名>_
```

これは OEM からのアラートであることを Centric Manager が識別するためのヘッダーです。「<ターゲットタイプ名>」は\$TARGET_TYPE 環境変数に格納されています。

例：

```
set SYSTEMWALKER_MESSAGE=OEM_%TARGET_TYPE%_%MESSAGE%  
C:\OEM\bin\mpadev\alert.exe -s %SYSTEMWALKER_SEVERITY% -n %HOST%  
-m %SYSTEMWALKER_MESSAGE%
```

バッチファイルのカスタマイズ

OEM が OS コマンド(バッチファイル)を実行する際には、ほかにもさまざまなアラート情報が環境変数に格納されており、要件に応じて Centric Manager にさまざまな情報を送ることができます(\$METRIC_VALUE→しきい値を超えたときの監視項目の値、\$TIMESTAMP→発生時刻、など)。

受け渡すことのできる環境変数の詳細については以下を参照してください。

Oracle Enterprise Manager アドバンスド構成

13.2.1.1 OS コマンドまたはスクリプトに基づく通知メソッドの追加

http://otndnld.oracle.co.jp/document/products/oem/10205/doc_cd/doc/em.102/B53907-01/notification.htm#36889

Copyright© 2011, Oracle. All rights reserved.

このドキュメントは単に情報として提供され、内容は予告なしに変更される場合があります。このドキュメントに誤りが無いことの保証や、商品性又は特定目的への適合性の黙示的な保証や条件を含め明示的又は黙示的な保証や条件は一切無いものとします。日本オラクル株式会社は、このドキュメントについていかなる責任も負いません。また、このドキュメントによって直接又は間接にいかなる契約上の義務も負うものではありません。このドキュメントを形式、手段(電子的又は機械的)、目的に関係なく、日本オラクル株式会社の書面による事前の承諾なく、複製又は転載することはできません。

Oracle は、米国オラクル・コーポレーション及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標または商標です。